

3 サツマイモ基腐病対策による畑作営農の再構築

サツマイモ基腐病対策～さつまいも産地の維持・振興に向けた取組～

成果の要約

- 1 各市と連携し基腐病の周知・研修会を行い、昨年より被害が軽減された。
- 2 基本的な基腐病対策を行った上で、ドローンによる一斉防除の有効性が確認できた。
- 3 基腐病の汚染の可能性の少ない水田活用により、健全種いも生産を行うことができ、普及の可能性を確認できた。
- 4 基腐病対策を総合的に取り組むことにより、基腐病発生が軽減され、上いも収量を確保できた。
- 5 さつまいもの輪作を担う大規模露地野菜農家に対し、基腐病軽減のための輪作の重要性と計画的輪作実践のためのほ場管理システムの必要性を周知できた。

1 対象

- (1) 枕崎市俵積田地区、南さつま市金峰町池辺地区、南九州市川辺町古殿地区農家
- (2) 大規模経営及び規模拡大志向農家
- (3) 経営継続補助金及びポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業取組農家



写真2 基腐病対策講習会

2 課題を取り上げた理由

- (1) 平成30年度からサツマイモ基腐病が発生し、産地の基幹作物であるさつまいもの生産安定を図る上で大きな課題となっている。
- (2) サツマイモ基腐病の感染拡大を防ぐためには、苗消毒や排水対策などの基本技術の徹底が有効とされているが、生産者への周知が十分に実施できていない。

- (2) 地域で取り組む一斉防除体系の検討
枕崎市俵積田地区を推進地区に設定し、

①防除地区の団地化、②植付時期を揃える、③生育初期の発病株抜取、の取組により、ドローン作業の効率化と散布作業の軽減、一斉防除による基腐病の発生軽減を図った。



植付2ヶ月後の地上部の発生はコガネセンガンで2%程度と被害を抑えることができた。収穫時は、調査株すべてに茎あるいは落葉に黒変が見られたが、塊根の被害はほとんどなかった。

基本的な基腐病対策を行った上で、ドローンによる地区内一斉防除の有効性を確認できた。

3 活動の内容及び成果

- (1) PT作業部会による基腐病軽減対策の推進
基腐病対策の実戦部隊として、各市ワーキンググループ体制を強化するとともに地域作業部会との役割分担を明確にし、①技術の周知・普及、②基腐病発生状況の的確な把握、③農家個人では解決できない課題の解決策検討に取り組んだ。



写真1 枕崎市ワーキンググループ



写真3 ドローン防除作業



写真4 参加農家取組反省会

(3) 水田を活用した種いも生産システムの検討

健全種いもを確保するため、基腐病の汚染の可能性の少ない水田を活用した健全種いも生産の実証に取り組んだ。

また、将来的にさつまいも連作とならないよう、ブロックローテーションに取り組んでいる地域である南九州市川辺町古殿地区（どんどんファーム古殿）に実証ほを設置した。

供試したシロユタカ、コガネセンガン、みちしづくともに基腐病の塊根への被害もなく、また、200g以上の収量が3トン程度となり、種いも供給組織の反応も良好で、普及の見込みは高い。



写真5 参加農家取組反省会



写真6 塊根被害は認められない

(4) 総合的防除対策による基腐病軽減効果の確認

さつまいも作付のない（休作）ほ場で、「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」対策を総合的に取り組むことにより基腐病発生を軽減するための展示ほを各市に設置し、対策技術の普及を図った

地上部には基腐病の発病が見られたが、塊根への被害はなく、上いも収量も3トン程度確保でき、休作による基腐病軽減効果

が確認できた。



写真7 連作(右)は枯れ上がりが激しい

(5) さつまいも輪作技術体系の確立

さつまいもの輪作を担う大規模露地野菜農家の作付実態の把握とさつまいも作付拡大に対する農家の意向調査を実施した。

基腐病被害がなければさつまいもを拡大したいとの意見が多かった。そのため、輪作による基腐病軽減対策研修会を開催し、輪作の重要性と計画的輪作実践のためのほ場管理システム活用 の啓発を行った。



写真8 基腐病対策・ほ場管理システム研修会



写真9 ほ場管理システム導入支援

4 今後の課題

- (1) 基腐病程度の高い地域でのさつまいも栽培継続
- (2) ドローンによる農薬散布時の飛散防止対策の検討
- (3) 水田を活用した種いも生産システムの構築
- (4) 基腐病に強い品種導入による生産性向上
- (5) さつまいも輪作体系の定着
- (6) 輪作を担う大規模露地農家の生産性向上

5 担当した普及職員（○はチーフ）

○福山，前田，橋口，久富木，仁田尾，岩崎，鎌田，藤崎，（藤田，窪園）